

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 本校創立以来の教育方針である「質実典雅」「文武両道」を旨とし、自ら学び、自ら考え行動する心豊かでたくましくバランスのとれた、国際社会に貢献する人間力あふれた人材を育成する。
- 「日本一の教育が受けられる高校」という理想の高根をめざし、古き良き伝統を継承しながら、「グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)」として、地域にねざしつつ、積極的に国際交流活動を行い、国際感覚の育成をめざす。
 - 生徒の進路実現に向け、大学との連携等を通じて学習活動の充実を図り、コミュニケーション能力、問題解決能力、科学的思考力を育成する。
 - 生徒の自主性を重んじ、生徒会活動や部活動の活性化を図り、グローバルリーダーとしてふさわしい人格の形成をめざす。

2 中期的目標

- 1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援**
- (1)「確かな学力」の定着と学びの深化
- ア より高い授業力を求め、研究授業や授業アンケートなどを活用して授業研究を行う。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業の工夫」に対する肯定率 85%以上を維持する。(R3：93% R4：93% R5：92%)
- イ 1人1台端末など ICT 機器を効果的に活用し、生徒の興味・関心を高める授業の研究・実践を行う。
- ※ 学校教育自己診断（教職員）における ICT 機器の活用に関する肯定率 90%以上を維持する。(R3：97% R4：100% R5：98%)
- (2) 観点別学習状況の評価に基づいて、評価を指導の改善に生かすという視点を重視し、授業改善を一層進める。
- ア 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を推進する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業満足度」（畷高の授業は必要な力がつく）の肯定率 90%以上を維持する。(R3：95% R4：96% R5：96%)
- イ 探究活動を通じて、「社会に貢献しようとする意識や意欲」「課題発見力」「発信力」「科学的リテラシー」などを育成する。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）による探究チャレンジへの肯定率を 80%以上とする。(R3：76% R4：79% R5：77%)
- (3) 生徒が自己の将来像を描き、希望の進路を実現するための指導と支援の充実を図る。
- ア 飯盛セミナーや大学研究室訪問など、大学や企業で活躍する社会人から学ぶ機会を設けてキャリア発達を促す。
- イ 授業の工夫や自習室の開室などにより、生徒に自学自習で学ぶ習慣を定着させる。
- ウ 大学入試の傾向及び生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を行ない、自学自習の効果を向上させる。
- ※ 学校教育自己診断（生徒）における、「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率 95%以上を維持する。(R3：98% R4：100% R5：100%)
- ※ 国公立大学合格者数 200 名以上（R3：227 名 R4：199 名 R5：184 名）、京都大学・大阪大学・神戸大学の合格者合計 70 名以上（R3：82 名 R4：63 名 R5：59 名）をめざす。
- 2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成**
- (1) グローバル社会においてリーダーとして活躍できる資質の育成。
- ア 充実した生徒会活動、部活動等により、たくましい人間力を育成する。
- ※ 部活動の加入率 90%以上を維持する。(R3：97% R4：95% R5：99%)
- ※ 複数の部活動における近畿大会以上への出場を継続させる（R3：8 部 10 種目 R4：10 部 12 種目 R5：8 部 16 種目）が近畿大会以上に出場
- イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導を徹底するとともに、社会貢献や人権に対する意識の向上を図る。
- ※ 生徒学校教育自己診断における「挨拶をよくしている」の肯定率 90%以上をめざす。(R3：86% R4：79% R5：78%)
- (2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力等の育成。
- ア 英語スピーチ大会（如月杯）、2 年生の探究チャレンジ発表会（2 回）などの取組みを通じて、コミュニケーション能力、主体的に協働しながら課題に取組む力や表現力の向上を図る。
- ※ 校外での各種コンクール等への応募数及び入賞数毎年 10 件以上をめざす。(R3：9 件 24 名 R4：10 件 41 名 R5：8 件 49 名)
- (3) 国際的な視野を広げ、異文化を理解するため、国際交流活動を充実させる。
- ア 台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナム、タイなど海外との交流を活用して、大学や関係機関の協力を得ながら、グローバルリーダーの育成に取り組む。
- イ 国際共通言語としての英語が使えるよう、4 技能統合型の授業や講習の充実を図り、実用英語力の向上を図る。
- ※ CEFR での B1 以上の到達率 170 名以上、B2 以上 50 名以上をめざす。(R3 B1：135 名 B2：22 名 R4：B1：161 名 B2：40 名 R5：B1：241 名 B2：68 名)
- 3 学校力・教員力の向上**
- (1) 機動力のある組織体制づくり
- ア 様々な教育課題に迅速かつ柔軟に対応できるよう、校内の各種会議の連携を密にして情報の共有を図り、組織の機動力を高める。
- イ グローバルリーダー育成のための教育活動が更に推進されるよう、組織体制と業務内容について見直しと効果検証を継続的に行う。
- ウ 働き方改革の実行により、仕事の負担による健康リスクの減少を図る。
- ※学校教育自己診断（教職員）における「教育活動全般にわたる評価と検証」の肯定率 70%以上を維持する。(R3：71% R4：74% R5：78%)
- (2) 研修等による教員力の向上
- ア 校内研修を計画的に実施し、本校の教職員として必要な資質・能力の向上を図る。
- イ 初任者研修や 10 年経験者研修等を活用し、OJT を通じて教員が相互に影響しあいながら教員力を向上する体制をつくる。
- (3) 広報活動の充実による教育力の向上
- ア 積極的な広報活動により、本校の特色とアドミッションポリシー（求める生徒像）を発信し、本校で学ぶ意欲の高い志願者を集める。
- ※学校説明会への参加者総数（年間）2,000 名以上を維持する。(R3：1276 名 R4：1844 R5：2481 名)
- (4) 安全で安心な学校生活を送れるよう環境を整備する。
- ア 個人情報の適正な管理を行うとともに、万が一事故が発生した際に迅速かつ的確に対応できる体制を整備する。
- イ 支援や指導を要する生徒に対して適切な対応ができるよう保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制をより一層充実する。
- ウ 地震、大雨等の災害や事故等発生時の連絡体制、感染症対策の徹底を図り、適切かつ円滑な危機対応ができるようにする。
- エ 障がい等何らかの事情のある生徒が安全で安心な高校生活を送れるよう、支援検討会議を通じて合理的配慮と必要な支援を行う。
- ※学校教育自己診断（教職員）における「支援や配慮を必要とする生徒への体制づくり」の肯定率 70%以上を維持する。(R3：79% R4：88% R5：94%)
- (5) 地元に信頼される学校づくりを推進する。
- ア 四條畷市等と連携を進め、地域と協働した取組みや小中学校との交流などを積極的に行なう。
- イ 部活動や学校行事、探究活動の成果発表など本校の教育活動を通じて、地域貢献に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕					学校運営協議会からの意見				
問内容		肯定率〔%〕							
		生徒	保護者	教職員					
(1)	学校の満足度。(保護者:生徒が生き生きしている。)	95.4	99.6	－	【第1回】令和6年7月1日(月) ○学校運営協議会委員出席者6名 (1)保護者からの意見書：なし (2)今年度の活動及び進路状況について (3)「令和5年度学校経営計画及び学校評価」、「令和6年度学校経営計画及び学校評価」について ・授業見学件数は目標値に達していないが、授業アンケートの全校平均値は高い⇒教員全体に授業を大切にしようという意識がある。授業見学を増やすために見学週間を年2回設定している。 ・授業見学件数は目標値に達していないが、授業アンケートの全校平均値は高い⇒教員全体に授業を大切にしようという意識がある。授業見学を増やすために見学週間を年2回設定している。 ・浪人をする生徒はどれくらいいるのか⇒60～70名ぐらいで、2浪は少ない。 ・あいさつに関する数値はどのように計っているのか⇒学校教育自己診断の肯定率から計測している。コロナ禍で減ったように思う。 ・トイレの改修は進んでいるのか⇒大阪府の施策に基づいて進めている。 ・他府県の高校の視察は進んでいるのか⇒校長マネジメントで2回ほど予定している。8月に筑波大附属駒場高校から教員を招聘し、研究授業を行う予定 ・業務の効率化についてはどうか⇒定時退庁日の設定や欠席連絡のフォーム化などを進めているが、残業時間は多い状況にある。 ・入試の志願者数について⇒今年度は大幅に減少したが、私学や他のGLHS校に流れた可能性がある。 ・遅刻数は他校に比べてどうなのか⇒少ない方である。コロナ禍前は1000件に満たなかった年もあったが、コロナ禍で遅刻や欠席のハードルが下がった印象がある。 ・観点別評価の状況はどうか⇒教科によってなじみ具合に差がある。 ・不登校の生徒はどれくらいいるのか⇒休みがちな生徒は各学年2～3名。組織的なサポートを行っている。				
	畷高は楽しい。	96.8	89.6	－					
(2)	教え方にさまざまな工夫をしている先生は多い。	93.8	－	－					
	興味を感じる授業が多い。	83.6	－	－					
	ペアワークやグループワークなどを授業に取り入れている。	－	－	86.0					
	授業におけるICT機器の活用。	－	－	98.0					
	授業アンケートの結果を教科指導に反映。	－	－	95.0					
(3)	担任以外にも悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	86.7	－	94.0					
	学校生活についての先生の指導は納得できる。(教員:理解を得ている)	90.2	96.1	97.0					
	将来の進路や生き方について考える機会がある。	97.7	94.3	84.0					
	生命の大切さや社会のルールについて考える機会がある。	92.0	93.1	－					
	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(教員:体制が整っている)	95.9	94.0	98.0					
(4)	畷高祭は、楽しく行えるように工夫されている。	97.2	94.0	100					
	部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	97.8	97.0	93.0					
(5)	本校の探究活動の取組みに満足。	79.0	94.0	96.0					
	本校の国際交流(台湾修学旅行・オーストラリア研修等)の取組みに満足。	94.0	93.0	98.0					
(6)	成績などの内容についてプライバシーが守られている。	97.4	96.0	93.0					
	人権を尊重した指導への取組み。(教員:十分に話し合われている)	－	95.0	74.0					
(1) 生徒の学校生活の満足度、保護者の評価は非常に高く、生徒・保護者ともに肯定率がさらに上昇した。これは、「勉強だけでなく、行事も部活動も全力で取り組み、楽しむ」という本校の教育方針が評価されていることの表れである。									
(2) 教え方の工夫の肯定率は上昇し、興味を感じる授業の肯定率は微減した。教員に関しては、ペアワークやグループワークを取り入れているの肯定率は微減したが、授業アンケートの結果を教科指導に反映するの肯定率は上昇した。全般的に授業に関する項目の肯定率は非常に高い。また、授業アンケートの全校平均値は3.53から3.52に微減した。今後も、生徒の学力や興味関心を高め、希望する進路の実現につながるよう、授業力向上委員会が中心となって、教員の授業相互見学を積極的に進めるとともに、各教科での研究授業に力を入れていく必要がある。									
(3) 将来の進路や生き方について考える機会の肯定率は、保護者と教職員で減少したが、それ以外のすべての項目の肯定率は上昇した。生徒指導や進路指導に関する肯定率は全体的に非常に高く、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や3年間の進路指導計画『なわて』に基づく進路指導、丁寧な教育相談などを行っている成果が指標にも表れている。今後も進路指導や教育相談体制の充実に努めていく必要がある。									
(4) 畷高祭の肯定率は生徒で微減したが、それ以外の肯定率は上昇しており、全体としての肯定率は非常に高い。これは、授業だけでなく行事や部活動も頑張るという本校の文武両道の伝統が継承されている表れである。今後も部活動や学校行事を通じて、生徒の「自主・自律・自由」の精神を育んでいきたい。									
(5) 探究活動の取り組みに関する生徒の肯定率は上昇したが、保護者や教職員に比べて肯定率が低いのが課題である。授業や部活動、行事などで忙しく、時間的な制約がある中での探究活動への取り組みが生徒の肯定率の低さに表れていると思われる。しかし、取組内容はインプット、アウトプット活動ともに年々進化しており、生徒の課題発見力やコミュニケーション能力、協働性を高める上で、探究活動は本校にとって不可欠の教育活動である。生徒の達成感を高めるとともに探究活動の重要性の意識づけを一層行っていく必要がある。国際交流に関する肯定率は非常に高いが、生徒の肯定率が微減した。これは、参加希望者が年々増える中で、希望しても海外研修に選ばれるのが難しくなっていることが原因ではないかと思われる。来年度も引き続き探究活動や国際交流の充実に図っていく必要がある。									
(6) プライバシー保護に関する肯定率は生徒、保護者、教職員ともに上昇したが、人権教育の取り組みに関する教職員の肯定率が大幅に減少した。教職員研修を含めた3年間の人権教育を学校全体としてどう進めるのか、人権教育推進委員会や職員会議で十分に話し合い、人権教育を充実していく必要がある。									
					【第2回】令和6年11月27日(水) ○学校運営協議会委員出席者4名 (1)保護者からの意見書：なし (2)委員による授業見学。 ・生徒たちが生き活きとしていて、人懐っこい。 ・生徒も教職員もよく頑張っている。 (3)「令和6年度 取組みの進捗状況について」 ・中学校教員対象及び塾対象の学校説明会は良い取り組みである。継続してほしい。 ・部活動加入率の上昇など、クラブは活性化しているが、教員の負荷はどうか？⇒季節によって負荷がかかるが、生徒の成長を見るのが楽しい。 ・中学校では顧問を決めるのが難しく、部活動指導員などを活用している。部活動顧問の決め方は？⇒希望制で運動部、文化部1つずつが基本。 ・国際交流が盛んで、いろいろなことにチャレンジしていく精神が畷高生の凄いいところである。今後の社会でとても大切。素晴らしい。 ・国際交流の選考について⇒不合格になった生徒のフォローを大切にしている。 ・働き方改革については、生徒も教職員も頑張っているので、校長の責任で、しっかり調整してほしい。 (4)令和7年度使用教科書一覧について 【第3回】令和7年2月12日(水) ○学校運営協議会委員出席者4名 (1)保護者からの意見書：なし (2)学校教育自己診断について (3)令和6年度及び令和7年度学校経営計画及び学校評価(案)について ・英語のディベートや暗唱大会、国際交流、探究活動、地域連携など、多岐にわたる取組みが用意されており、行事が多く充実している。 ・生徒の選択肢がたくさんあり、全方位でやっている。 ・生徒の挨拶が増えたことはよいが、人権教育に関する肯定率が低下している⇒教職員の人権教育に関する知識や意識を高めることが必要。 ・SNSの使い方についての指導はどうなっているか？⇒1年生入学当初に研修をしている。 ・AIの活用の現状はどうか？⇒探究活動のイラストなどに活用している例がある。 ・生徒の持ち物が多すぎる⇒個人ロッカーをうまく活用してほしい。 ・教職員の残業時間が減少したのは良い。 ・学力だけでなく、コミュニケーション能力の育成が大切。 ・地域連携など、今の取組みを継続して、地域から愛される畷高であってほしい。 ・令和6年度及び令和7年度学校経営計画及び学校評価(案)について承認された。				

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標（R5年度値）	自己評価
1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援	（1）「確かな学力」の定着と学びの深化 ア より高い授業力を求めた授業研究 イ 1人1台端末などICT機器を効果的に活用した授業づくり	（1） ア・授業力向上委員会が中心となって、教員の授業力向上を図る。 ・「学ログ」を有効活用して、授業見学・授業公開・研究授業を積極的に行い、生徒の興味・関心を高める授業を実践する。 ・教科横断的な授業見学を活性化する。 イ・1人1台端末など、ICT機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。	（1） ア・教員の授業観察件数1人平均5回以上[4.3回] ・授業アンケート全校平均3.4以上の維持[3.53] ・学校教育自己診断（生徒）「興味を感じる授業」の肯定率80%以上維持する。[84%] イ・ICT機器の活用率90%以上の維持[98%]	（1） ・教員の授業力向上をめざして、授業力向上委員会が中心となり、教員の授業相互見学や研究授業に積極的に取り組んだ。 ア. 教員の授業観察件数1人平均7.7回に増加（◎） ・授業アンケート全校平均3.52に微減（○） ・学校教育自己診断（生徒）「興味を感じる授業」の肯定率は84%を維持（○） イ・ICT機器の活用率は98%を維持（○）
	（2）観点別学習状況の評価の推進による指導と評価の一体化 ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 イ 探究チャレンジ等による確かな学力の育成 ウ SSH第Ⅲ期の目標である探究活動の地域への発信をめざす	（2） ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。 イ・3年間で5期に分け、それぞれの目標を定め、全生徒を対象にして計画的に探究チャレンジを行う。 ウ・本校の探究活動の成果を地域の高校や中学校へ情報発信する。	（2） ア・アクティブラーニング（AL）の実施率80%以上[88%] イ・学校教育自己診断（生徒）「探究チャレンジ」の肯定率75%以上[77%] ウ・北河内探究活動交流会や探究チャレンジへの参加者の増加[15校、18名]	（2） ・全学年で新観点別評価を実施したが、指導と評価の一体化を図ることができた。今後も教員研修などを通じて理解を深めていく必要がある。 ア. アクティブラーニング（AL）の実施率は86%に微減（○） イ・学校教育自己診断（生徒）「探究チャレンジ」に関する肯定率は79%に上昇（○） ウ. 通年公開授業には、他府県を含む小中高24校から教員41名が参加（◎）
2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成	（3）進路実現の指導と支援 ア 進路指導計画『なわて』の有効活用 イ 習熟度別授業の充実と生徒の意欲向上 ウ 飯盛セミナーなどを通じたキャリア発達の促進 エ 講習・補習等による自学自習の効果の向上	（3） ア・希望する進路実現に向けて、3年間の進路マップ『なわて』を有効に活用し、進路指導の見える化を進める。 イ・数学・英語で習熟度別授業を充実させて、生徒の意欲向上を促し、希望する進路の実現につなげる。 ウ・飯盛セミナー、大学研究室訪問を実施する。 エ・適切な課題の設定や自習室の開室などで自学自習の充実を図る。 ・大学入試の変化や生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を充実させる。 ・進学実績が優れているなど、特色のある高校の視察を積極的に行う。	（3） アイ・学校教育自己診断（生徒）「将来の進路や生き方について考える機会」の肯定率90%以上[97%] ウ・大学研究室訪問の参加者数400人以上の維持[521人] エ・学校教育自己診断（生徒）「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率95%以上[100%]	（3） ・1年生全員で京大研究室訪問を新規で実施するなど、進路指導計画『なわて』に基づいて、全学年で体系的な進路指導を実践できた。今後も生徒の意識を高め、希望する進路の実現を図っていきたい。 アイ. 学校教育自己診断（生徒）「将来の進路や生き方について考える機会」の肯定率は98%に上昇（○） ウ・飯盛セミナーは8講座実施。大学研究室訪問は1年生全員で京大研究室訪問を実施したことにより734名に大幅増加（◎） エ・学校教育自己診断（生徒）「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率は99%（○） ※令和5年度GLHS評価審議会総合評価は4年連続でAA（令和6年7月公表）（◎）
	（1）グローバルリーダーとしての資質の育成 ア 生徒会活動、部活動等によるたくましい人間力の育成 イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導の徹底及び社会貢献や人権に対する意識の向上	（1） ア・文化祭等の行事や部活動をさらに充実させる。 イ・全教員で登校時の生徒指導を行い、生徒の基本的生活習慣に関する意識を高める。 ・地域清掃などの奉仕活動を継続的に行う。 ・教職員の人権意識向上に取り組み、とりわけSNSでの人権侵害については、教員研修の充実を図り一層の指導を行う。	（1） ア・学校教育自己診断（生徒）「畷高祭の工夫」に関する肯定率90%以上の維持[97%] ・部活動の加入率90%以上(99%) イ・年間遅刻者数の前年度10%の削減[1371件] ・学校教育自己診断（生徒）「挨拶をよくする」の肯定率80%以上[78%] ・学校教育自己診断（教職員）「人権を尊重した指導」への肯定率70%以上[84%]	（1） ・畷高祭はティールームの実施など、コロナ禍前に戻った。国際交流は、SSHタイ研修を実施するなど、新規の交流が増加した。しかし、遅刻の増加等、基本的な生活習慣の確立を徹底していく必要がある。 ア・学校教育自己診断（生徒）「畷高祭の工夫」に関する肯定率は97%を維持（○） ・部活動の加入率99.1%に増加（◎） イ・年間遅刻者数1627件に増加（△） ・学校教育自己診断（生徒）「挨拶をよくする」の肯定率は85%に上昇（◎） ・学校教育自己診断（教員）「人権を尊重した指導」の肯定率は74%に減少（△）
3 学校力・教員力の向上	（2）コミュニケーション能力等の育成 ア 校内発表会への取組みを通じて、能力の育成を図る	（2） ア・英語スピーチ大会（如月杯）、探究チャレンジ発表会（2回）などを系統的に実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。	（2） ア・学校教育自己診断（生徒）「発表活動のチャンスが多い」の肯定率85%以上[96%] ・校外のコンテスト等での入賞10件以上[30件]	（2） ・コンテストやオリンピックなどアウトプット活動への参加が増加した。また、数学オリンピックや情報オリンピックの講習会を実施し、他校生もたくさん参加するなど、本校の取組を発信できた。来年度以降もアウトプットの機会を増やし、生徒の表現力や発信力を高めていきたい。 ア・学校教育自己診断（生徒）「発表活動のチャンスが多い」の肯定率は96%を維持（○） ・校外のコンテスト等での入賞は13種類、58名にのぼり、全国レベルでの入賞が増加した（◎）
	（3）国際交流活動の充実 ア 海外との交流を活用したグローバルリーダーの育成 イ 4技能統合型の授業や講習等による実用英語力の向上	（3） ア・台湾修学旅行やオーストラリア研修、ベトナム医療ボランティアツアーなどの国際交流を実施する。 ・台湾、オーストラリアなどの高校生とオンラインでの交流を継続する。 イ・国際交流キャンプ、4技能統合型の英語授業や講習などを通じて、使える英語力を向上させる。	（3） ア・海外との交流を活用した課題研究等の実施5本以上[5本] イ・CEFRのB1レベル130名、B2レベル20名[B1:241名、B2:68名]	（3） ・国際交流が活性化した。SSHタイ研修（新規、7～8月）、台湾修学旅行（10月）、ベトナム医療ボランティアツアー（12月）、オーストラリア研修（3月予定）を実施。タイの交流校（10月）とオーストラリアのバンダバーグ校が来校（12月）。オンラインでの台湾とのペンパルプロジェクトやオーストラリアとのカード交換は継続。 ア・海外との課題研究等の実施2本（△） イ・CEFRのB1レベルは302名、B2レベルは88名に増加（◎）
	（1）機動力のある組織体制 ア ミドルアップダウン型の運営体制づくり	（1） ア・経営企画会議、授業力向上委員会、将来構想検討委員会を通じて課題認識の共有を図り、教職員研修を通じて課題解決に向けてのコンセンサスを作る。	（1） ア・学校教育自己診断（教職員）「各種会議が有効に機能」の肯定率65%以上[73%] ・学校教育自己診断（教職員）「教育活動全般の評価と検証」の肯定率70%以上[78%]	（1） ・SSH第Ⅲ期指定2年目。地域への発信等は大幅に増加した。一斉退庁日の実施や業務の効率化により、時間外勤務時間数は減少した。来年度も働き方改革を一層進めていく必要がある。 ア・学校教育自己診断（教職員）「各種会議が有効に機能」の肯定率72%に微減（○） ・学校教育自己診断（教員）「教育活動全般の評価と検証」の肯定率は71%に減少（△） イ・学校教育自己診断（教員）「探究活動の取組み」の肯定率は93%に微減（○）
	イ グローバルリーダー育成のための組織と業務の見直し及び検証 ウ 働き方改革の実行による仕事の負担リスク減少	イ・GL部を中心に全校体制で探究チャレンジの指導に取り組み、地域に発信する。 ウ・部活動方針の遵守及び全校一斉定時退庁日の遵守を推進するなど、校務運営の効率化をさらに進める。 ・年次有給休暇の取得を促す。	イ・学校教育自己診断（教職員）「探究チャレンジの取組み」の肯定率90%以上[96%] ウ・時間外勤務月80時間以上の職員合計数の10%以上の減少[100人] ・ストレスチェックにおける職場総合健康リスク90以下の維持[83]	ウ・時間外勤務80時間以上の職員合計数10%減少の90人（○） ・ストレスチェックにおける職場総合健康リスクは73

府立四條畷高等学校

		・教職員間の情報共有に努め、風通しの良い職場環境を作る。		で、高水準を維持(◎)
	(2) 研修等による教員力の向上 ア 校内研修を計画的実施 イ 法定研修を活用した OJT による教員力の向上	(2) ア・スキルアップ研修等、校内研修の計画的実施 イ・メンター制度により OJT で初任者、2 年め、10 年め教員の相互育成を図る。	(2) ア・年間教職員研修の回数 10 回以上を維持する [11 回] イ・初任者ミーティング等、研修の効果測定を行い、肯定率を 90%以上とする。 [100%]	(2) ア・将来構想検討委員会主催の教職員研修 1 回（進学実績を向上させるために何ができるか）、スキルアップ研修及び分析検討会 6 回、人権教育研修 3 回、救急講習 1 回など、教職員研修は 12 回実施 (○) イ・初任者ミーティングの肯定率 100% (◎)
	(3) 広報活動の充実による教育力の向上 ア 広報活動による本校の特色とアドミッションポリシーの発信	(3) ア・校内外での学校説明会などで積極的に本校の特色を発信する。	(3) ア・学校説明会への参加者数 2,000 名以上の維持 [2481 名] ・母校訪問の増加 [32 校、76 名]	(3) ・中学校教員対象、塾対象の学校説明会を新規に実施。畷高見学会、オープンスクール、畷高説明会を 2 回実施。畷高アンバサダー（生徒による母校訪問）など、広報活動に力を入れた。また、中学校への出前授業や説明会も増加した。来年度はさらに中学校との連携を活性化していく。 ア・学校説明会への参加者数は昨年度よりも増加し 3075 名 (◎) ・母校訪問数 45 校、参加者 110 名に増加 (◎)
	(4) 安全で安心な学校生活への環境整備 ア 個人情報の適正な管理と事故対応への体制整備 イ 障がい等による支援や指導を要する生徒への適切な対応	(4) ア・個人情報の適正な管理と事故対応について周知徹底を図る。 イ・障がい等支援が必要な生徒には支援検討会議が中心となって合理的配慮に基づく支援を行う。 ・不登校など配慮の必要な生徒等に対する初期対応を手厚くするとともに、SC との連携を図り、支援検討会議を通じて必要な支援を行う。	(4) ア・学校教育自己診断（教員）「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定率 80%以上の維持 [84%] イ・学校教育自己診断（教員）「支援や配慮」に関する肯定率 85 % 以上の維持 [94%]	(4) ・支援検討会議による不登校生徒等への支援や配慮など、教育相談体制は一層充実した。不登校に関する予防や初動を徹底するために、来年度以降も教職員研修に力を入れていきたい。 ア・学校教育自己診断（教員）「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定率は 93%に大幅上昇 (◎) イ・学校教育自己診断（教員）「支援や配慮」に関する肯定率は 95%に上昇 (○)
	ウ 災害や事故等発生時の体制整備、感染症対策の徹底	ウ・防犯・防災計画、大規模災害時初期対応マニュアル等の内容を周知徹底する。 ・学校三師と連携し、感染症対策などの注意喚起を積極的に行う。	ウ・全校避難訓練や避難指導の実施（2 回） ・教職員救急法講習会の実施（1 回）	ウ・全校避難訓練や避難指導の実施（2 回）(○) ・教職員救急法講習会を全員参加で実施（1 回）(○)
	(5) 地元信頼される学校づくり ア 四條畷市等との連携 イ 部活動や学校行事、探究チャレンジの成果発表などを通じた地域貢献	(5) ア・小中学校への出前授業やオープンラボ等、四條畷市等と交流した取組みを行う。 イ・地域連携企画 in 畷高（北河内探究活動交流会や小中学生対象のイベント等）によって本校の教育活動を地域の高校や中学校に広げていく。	(5) ア・小中学校を対象とした取組み及び四條畷市と連携した取組み 7 種類以上 [10 種類] イ・地域住民等に向けた取組み 7 種類以上 [7 種類] ・北河内探究活動交流会などの地域連携企画の継続	(5) ・雁屋・江瀬美盆踊り with 畷高生や北河内探究活動交流会、探究ラボによるオープンラボ、小学生対象のスポーツ体験教室とワクワク実験教室、四條畷市主催の発表会への参加、地域清掃など、地域連携がさらに活性化した。来年度以降も地域連携を一層進めていきたい。 ア・小中学校を対象とした取組み及び四條畷市と連携した取組みは 10 種類、23 件に大幅増加 (◎) イ・地域住民等に向けた取組みは 10 種類、22 件に大幅増加 (◎)